

第5期 中期経営計画

2021-2023

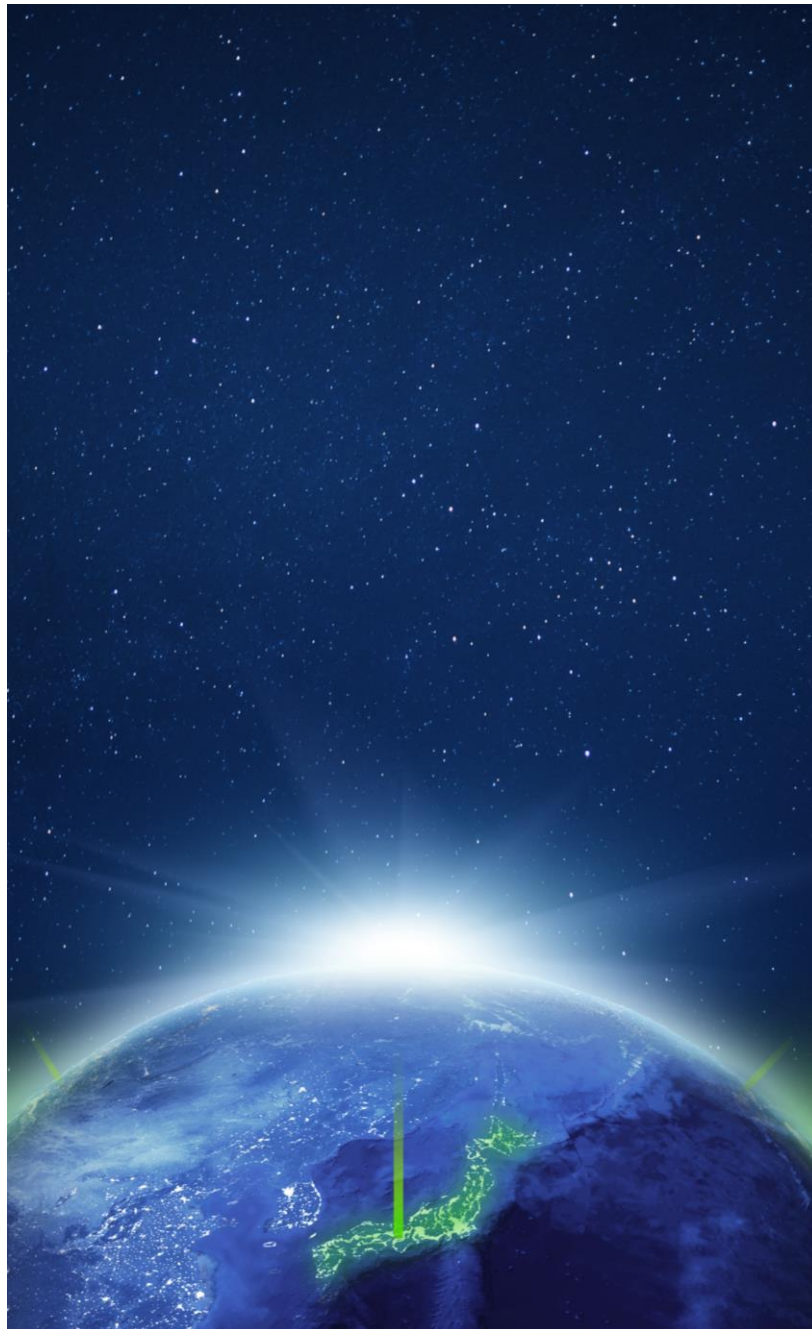
PROACTIVE II

—— 第3次成長期の幕開け ——

2021年5月14日

PROACTIVEとは、前向き、先見的を意味する用語です。

国際社会、日本社会の変化に対応していくためには、
東和薬品という会社および社員が将来に起こりうる変化やリスクを予測し、
あらかじめ必要な対策を打つことが重要であると考えています。



中期経営計画説明の構成

1

第4期 中期経営計画（2018-2020）総括

2

環境認識

3

東和薬品グループの目指す姿

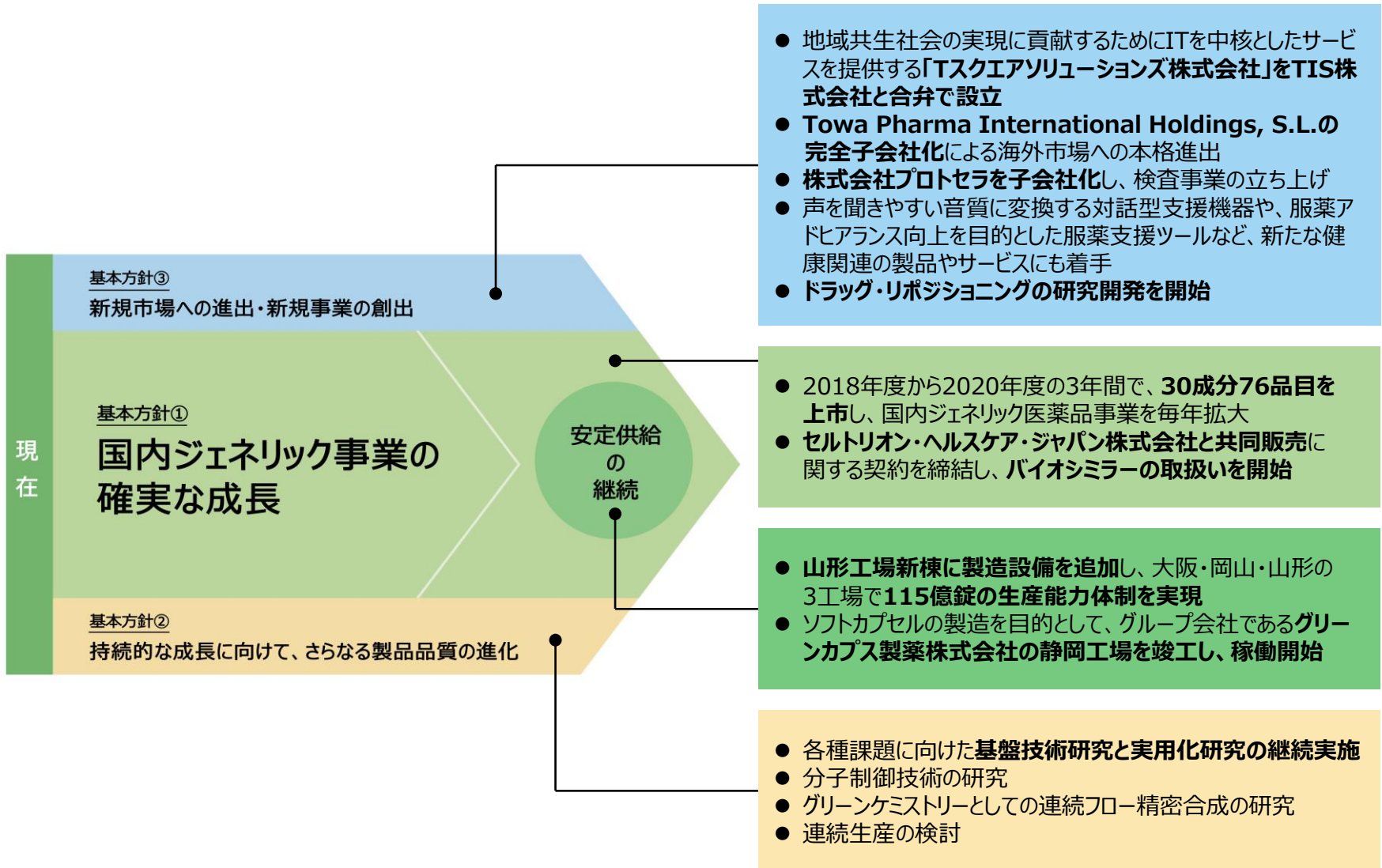
4

第5期 中期経営計画（2021-2023）

1

第4期 中期経営計画（2018-2020）総括

基本方針への取り組み結果



主要項目の計数目標 振り返り①

計数目標	売上高	営業利益（累計）	自己資本比率
	<p>1000億円達成</p>	<p>当初目標 300億円以上</p> <p>▼ 2019年5月より</p> <p>修正目標 400億円以上</p>	<p>50%以上</p> <p>財務安定性の向上</p>
	▼	▼	▼
実績	達成	達成	自己資本比率
	<p>1549億円</p> <p>連結売上高（年度） 1051億円（2018年度） 1104億円（2019年度） 1549億円（2020年度）¹⁾</p>	<p>累計520億円</p> <p>連結営業利益（年度） 160億円（2018年度） 161億円（2019年度） 199億円（2020年度）¹⁾</p>	<p>47.5%</p> <p>自己資本比率（年度） 48.6%（2018年度） 45.5%（2019年度） 47.5%（2020年度）</p>

1) 2020年度よりTowa Pharma International Holdings, S.L.を連結範囲に追加

主要項目の計数目標 振り返り②

計数目標	研究開発費（累計）	設備投資（累計）	配当政策
	<p>260億円以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新製品の確実な上市に向けた開発計画 ● 医療機関、患者からの要望による製品の改良・改善 	<p>200億円以上</p> <p>安定供給体制の維持・強化のための設備投資</p>	<p>安定配当の実施</p> <p>安定的な配当を行うことを基本とし、状況に応じて自己株式取得等による株主還元を図る</p>
実績	達成	達成	達成
	<p>累計271億円</p> <p>連結研究開発費（年度） 79億円（2018年度） 86億円（2019年度） 106億円（2020年度）¹⁾</p>	<p>累計226億円</p> <p>連結設備投資（年度） 60億円（2018年度） 62億円（2019年度） 104億円（2020年度）¹⁾</p>	<p>安定配当の実施</p> <p>1株当たり年間配当（年度） 35.8円（2018年度） 44.0円（2019年度）²⁾ 44.0円（2020年度）</p>

1) 2020年度よりTowa Pharma International Holdings, S.L.を連結範囲に追加
2) 2019年4月1日より株式分割

2

環境認識

外部環境の変化

経済財政運営と改革の基本方針 2020

●ポストコロナ時代の新しい未来

- ◎ 個人が輝き、誰もがどこでも豊かさを実感できる社会（柔軟性・多様性、変化や失敗の許容、ワーク・ライフ・バランスの実現）
- ◎ 誰ひとり取り残されることなく生きがいを感じることでできる包摂的な社会（セーフティネット、人とのつながり、不安に寄り添う）
- ◎ 国際社会から信用と尊敬を集め、不可欠とされる国（自由貿易の維持・発展、新たな国際秩序・ルールづくり、国際協調・連帯）

●国民の生命・生活・雇用・事業を守り抜く

●「新たな日常」の実現：10年掛かる変革を一気に進める

- ◎ 骨太方針2018、骨太方針2019等の内容に沿った社会保障制度の基盤強化（ジェネリック医薬品の使用割合80%を目指す）

「新たな日常」を通じた
「質」の高い経済社会の実現

2040年を展望した社会保障改革 の取り組み

●多様な就労・社会参加

- ◎ 多様な雇用、就業機会の充実、働き方に柔軟に対応した年金制度への見直し

●健康寿命の延伸

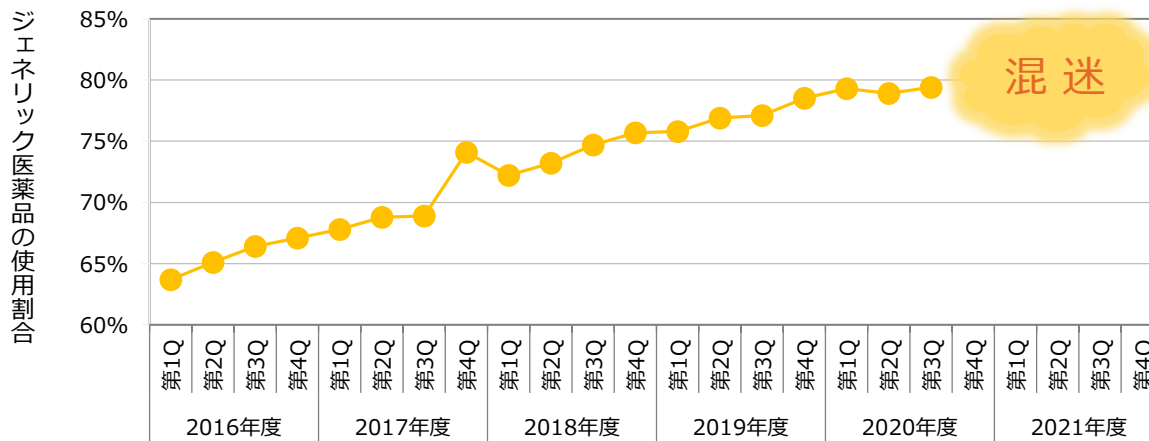
- ◎ 医療機関と保険者、民間事業者等の連携による医学的管理（運動・栄養等）を一体的に提供できる仕組みの構築
- ◎ 身体を動かす環境の大幅な拡充、介護予防事業と高齢者の保健事業（フレイル対策）との一体実施および認知症予防の施策の推進
- ◎ 自然に健康になれる環境づくりの推進

●医療・福祉サービスの改革

- ◎ ロボット、AI等の現場活用に向けた実用化構想の検討
- ◎ 介護施設における介護助手、介護ロボット（センサーを含む）、ICT活用等を組み合わせた業務効率化のモデル事業を開始

誰もがより長く元気に
活躍できる社会の実現

ジェネリック医薬品業界の現状



政府は4年前の「骨太方針2017」で、2020年9月までにジェネリック医薬品の使用割合を80%まで高めることを目標に掲げ、2020年度第3四半期（2020年10月～12月）のジェネリック医薬品の数量シェア分析結果（速報値）は79.4%であり、概ね達成した

しかし、昨今の不祥事により

**これまで築き上げてきたジェネリック医薬品に対する国民の信頼感は低下、
業界全体として安定供給責任が果たせず、市場は混乱し、先行きは混迷を極めている**

こうした状況下で、厚生労働省はジェネリック医薬品の新目標について、単に新たな数値を設定しただけでは、患者や医療関係者に「到底理解が得られない」とし、ジェネリック医薬品への信頼を取り戻すためには、

徹底した製造管理・品質管理を踏まえた安定供給を確保する方策も合わせて打ち出す必要がある

3

東和薬品グループの目指す姿

東和薬品グループの企業理念

私達は 人々の健康に貢献します

私達は こころの笑顔を大切にします



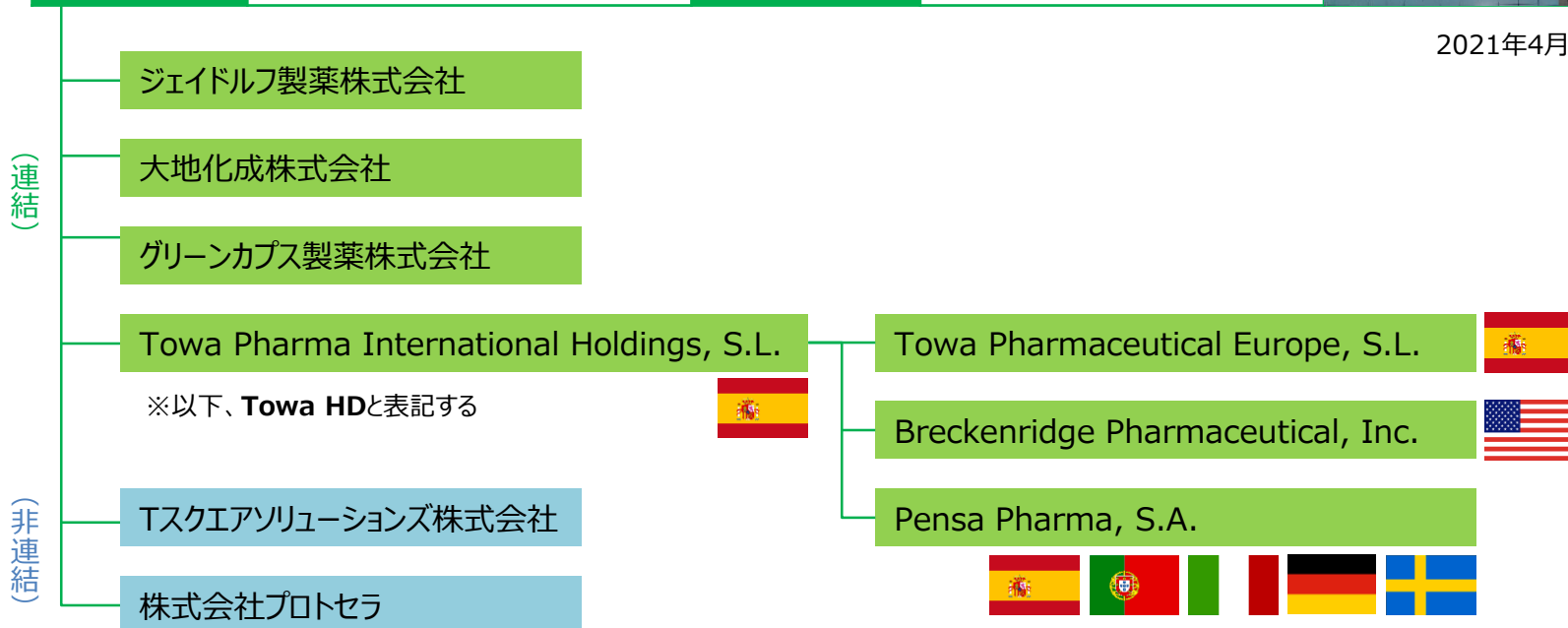
東和薬品グループは、優れた製品とサービスを創造することによって、人々の健康に貢献します。そして私達の企業活動を通して、患者さん、医療関係者の皆様、地域社会をはじめとするすべての方々にごころから喜ばれ、求められる企業を目指していきます。

東和薬品グループの概要

東和薬品株式会社			
代表者	吉田逸郎（代表取締役社長）	創業	1951年6月（昭和26年）
所在地	大阪府門真市	社員数	3,314名
主要事業	医療用医薬品の製造・販売	自社製品数	332成分751品目
資本金	47億1770万円	営業所数	71拠点



2021年4月時点



こころの笑顔を、すべてのひとに。
あしたの健康を、あなたのものに。

東和薬品グループ会社

ジェイドルフ製薬株式会社

連結

代表者 越田博武（代表取締役社長）

所在地 滋賀県甲賀市

主要事業 医療用医薬品の製造販売

資本金 40百万円



東和薬品
出資比率 100%

グリーンカプス製薬株式会社

連結

代表者 植木俊行（代表取締役社長）

所在地 静岡県富士宮市

主要事業 医薬品のソフトカプセル製造

資本金 90百万円



東和薬品
出資比率 100%

Tスクエアソリューションズ株式会社

非連結

代表者 天野雄介（代表取締役社長）

所在地 大阪府守口市

主要事業 ヘルスケア関連のITサービス提供

資本金 100百万円

東和薬品
出資比率 66%

大地化成株式会社

連結

代表者 島田純一（代表取締役社長）

所在地 兵庫県神崎郡福崎町

主要事業 医薬品原薬・中間体の研究開発及び製造

資本金 50百万円



東和薬品
出資比率 100%

Towa Pharma International Holdings, S.L.

連結

代表者 久保盛裕（Managing Director）

所在地 バルセロナ（スペイン）など

主要事業 欧米地域統括会社

資本金 3百万ユーロ



東和薬品
出資比率 100%

株式会社プロトセラ

非連結

代表者 田中政男（代表取締役会長）

所在地 大阪府大阪市

主要事業 疾病リスクの検査サービス事業、診断用及び治療用医薬品の研究開発と販売

資本金 300百万円

東和薬品
出資比率 77%

2021年4月時点

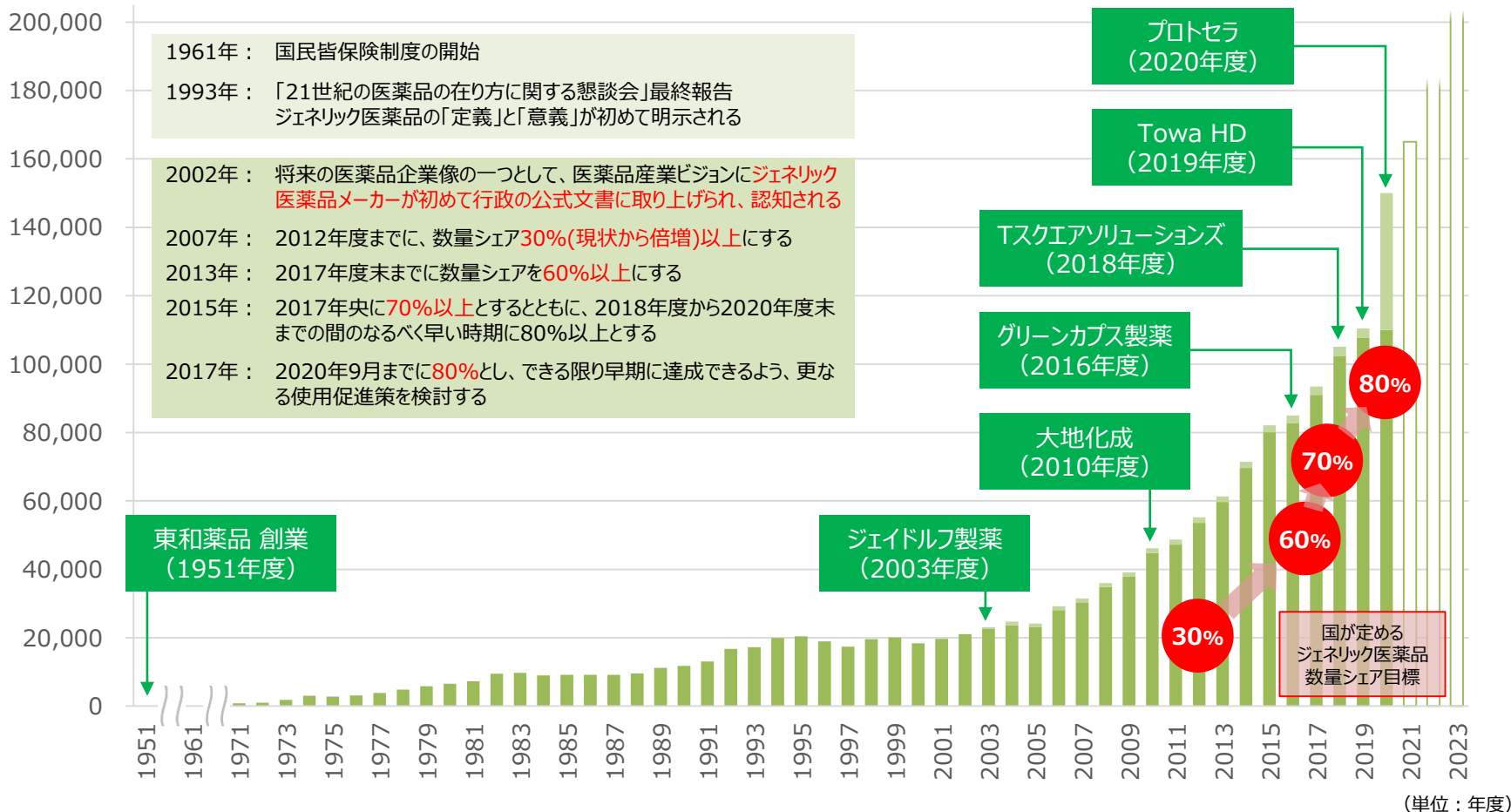
こころの笑顔を、すべてのひとに。
あしたの健康を、あなたのものに。

東和薬品グループの歩み



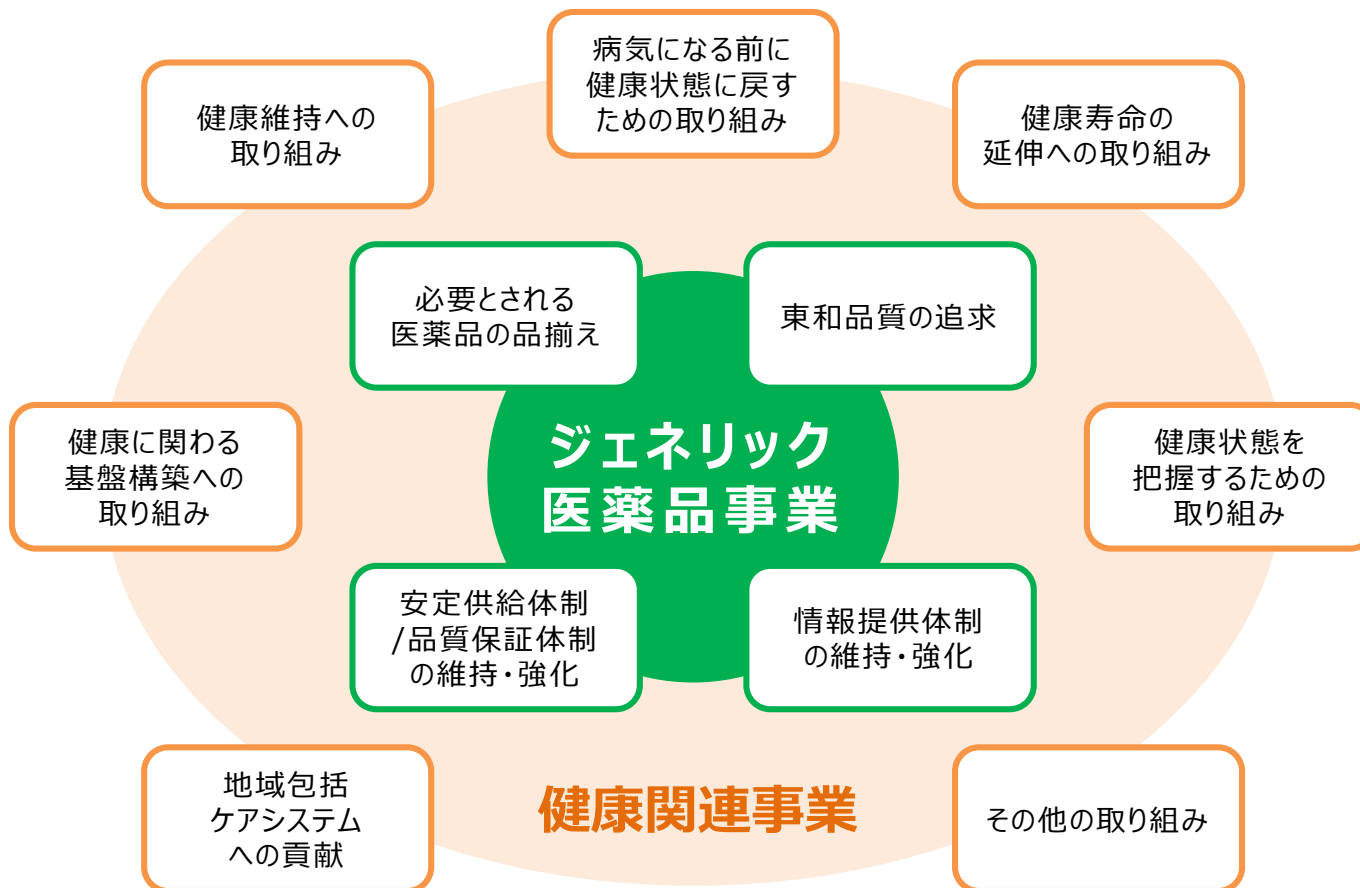
(単位：百万円)

[売上高推移]



こころの笑顔を、すべてのひとに。
 あしたの健康を、あなたのものに。

東和薬品グループの目指していく事業



**ジェネリック医薬品事業をコア事業として、
健康に貢献するあらゆる健康関連事業について展開**



2030年までの国際目標であるSDGsに対して、ゴール3「すべての人に健康と福祉を」を中心に、その他のゴールについても取り組む

4

第5期 中期経営計画（2021-2023）



PROACTIVE II

—— 第3次成長期の幕開け ——

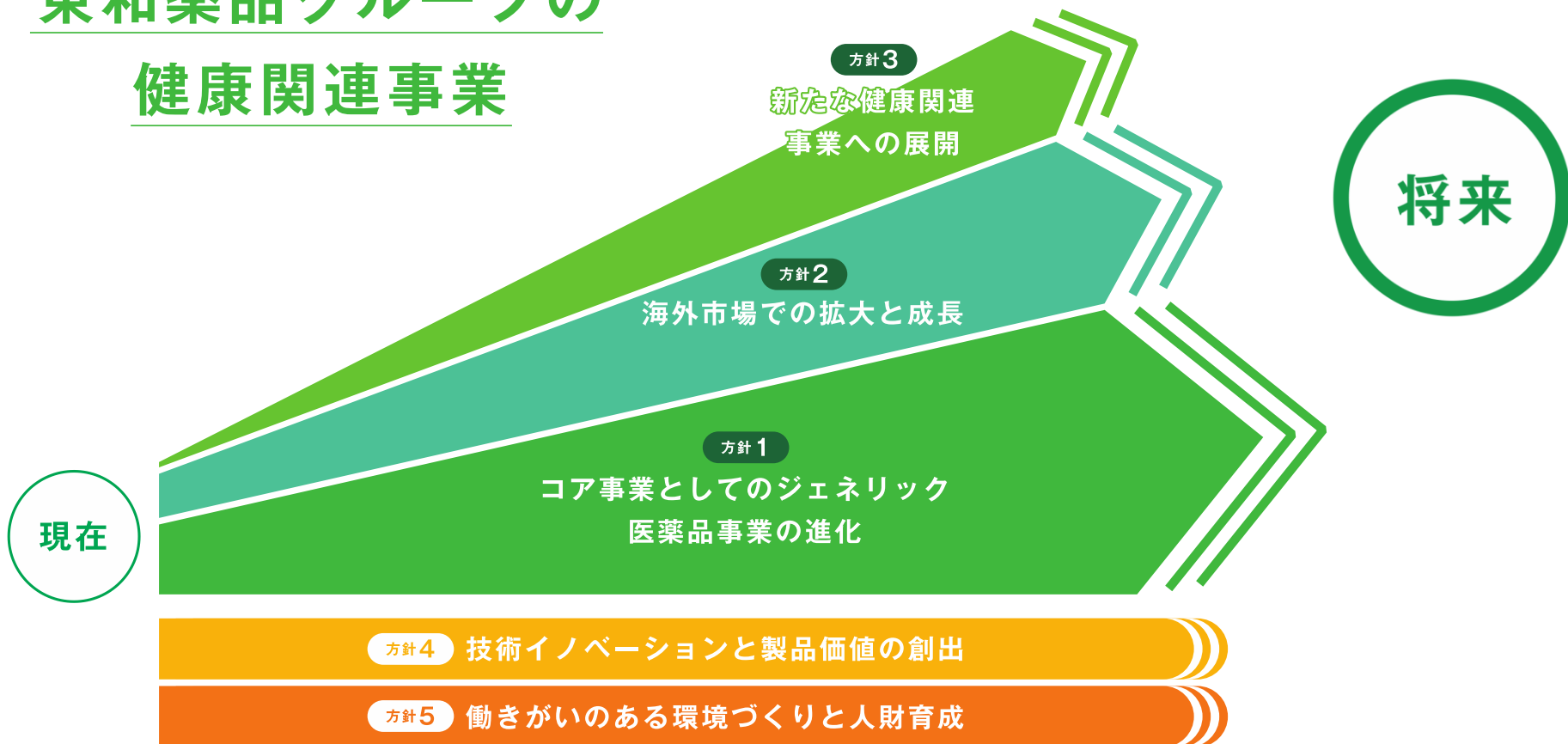
「PROACTIVE II」は前期の中期経営計画2018-2020「PROACTIVE」からのつながりと連動性をもたせ、さらに第3次成長期という新たなステージで、将来のあるべき姿に向けて進化、発展をさせていきたいという思いを込めた用語です。

東和薬品グループの全役員・社員が共通認識をもって、いつの時代でも、どの地域でも、その地域に住んでいる人々に、必要とされる会社、必要とされる製品、サービスを提供することができる会社であることを目指します。

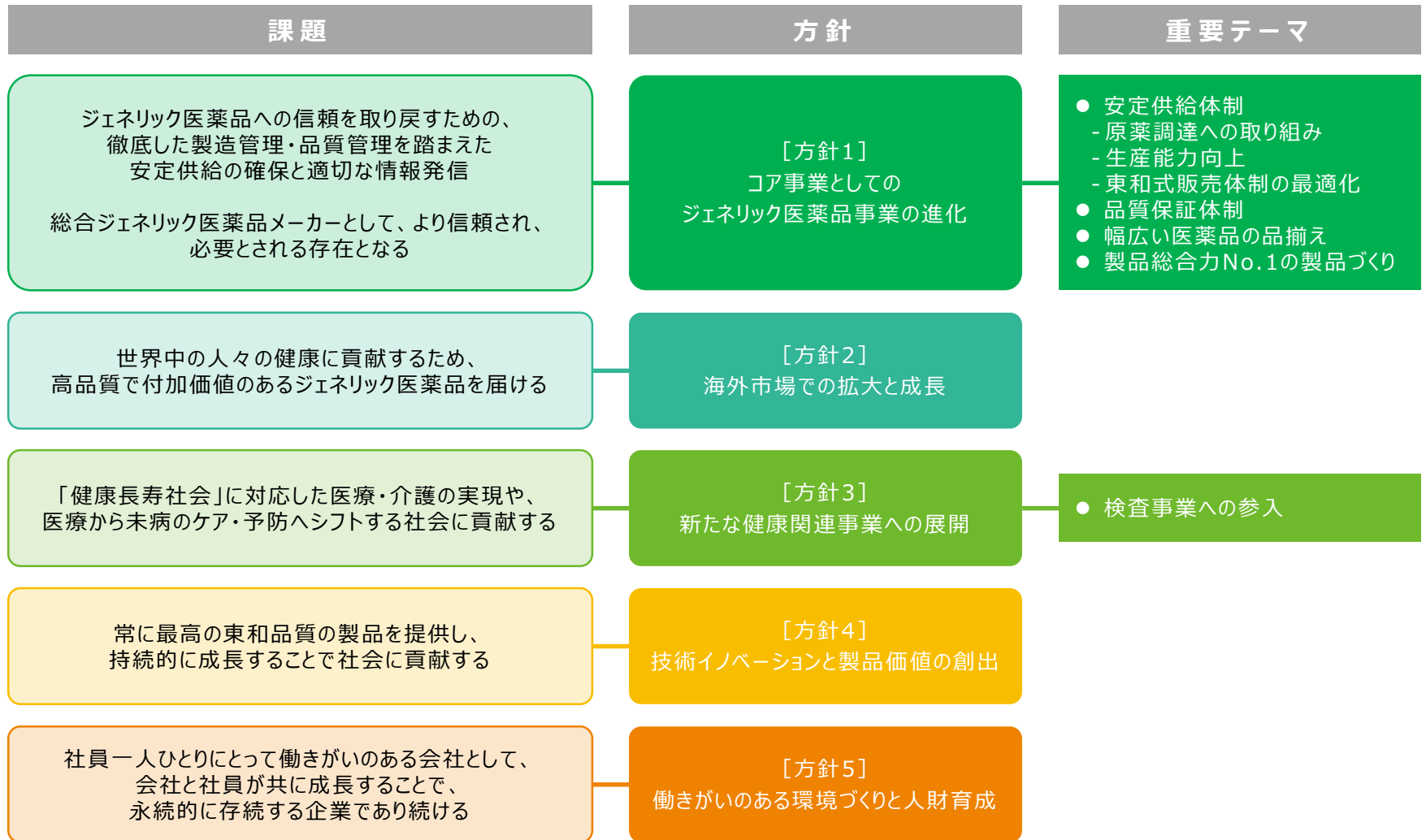
ジェネリック医薬品の研究開発・製造販売をコア事業とした健康に貢献するあらゆる健康関連事業について、日本および欧米を拠点として、安全性と信頼性をもって世界中に展開していきたいと考えています。

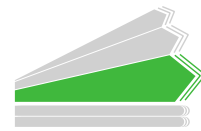
基本方針

東和薬品グループの 健康関連事業

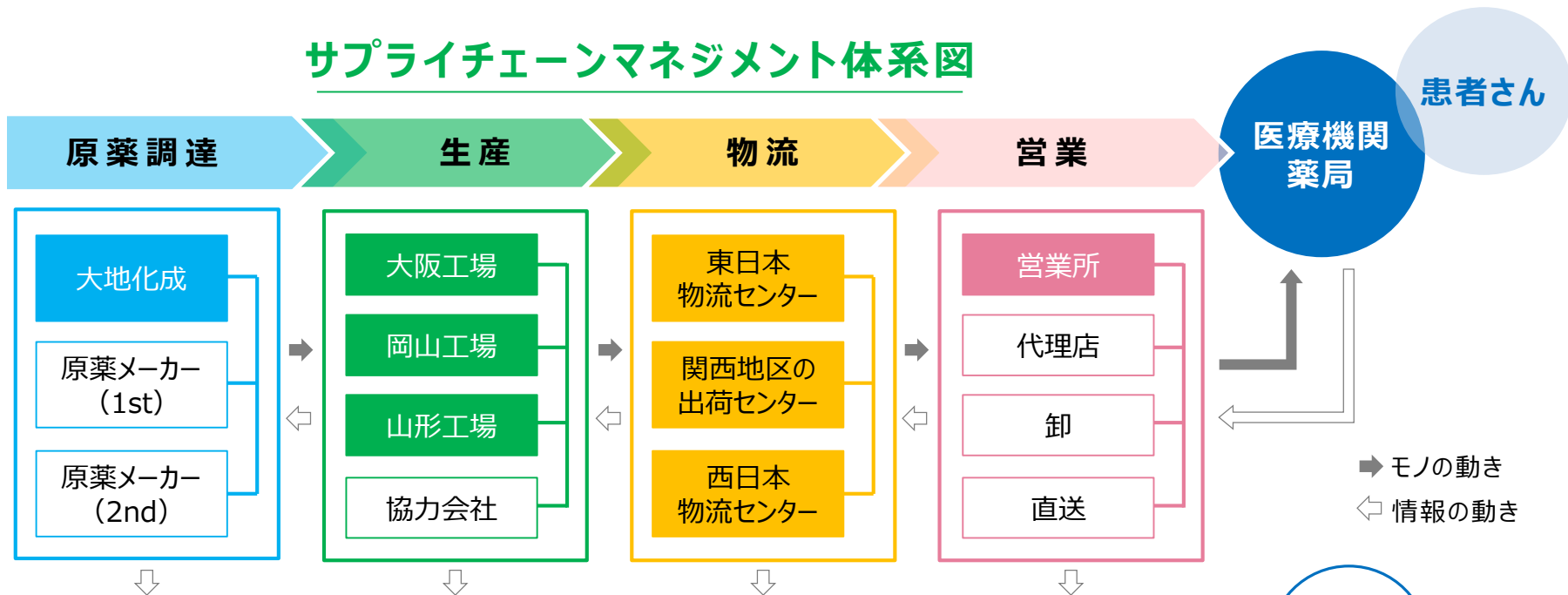


課題と重要テーマ





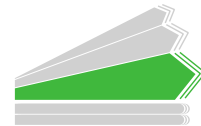
サプライチェーンマネジメント体系図



情報を共有・連携し、全体最適化を図る

<ul style="list-style-type: none"> ● 合成プロセスの開発 ● 協力会社との連携 ● 複数購買 <p>→20頁</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 生産能力向上 <p>→21頁</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 3工場バックアップ体制 ● 他社との協業体制 	<ul style="list-style-type: none"> ● 東西物流センターによるバックアップ体制 ● 関西地区に出荷センター開設予定 	<ul style="list-style-type: none"> ● 東和式販売体制の最適化 <p>→22頁</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 情報提供、情報収集
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

サプライチェーンマネジメントの視点を重視し、リスクに応じた取り組みを通して安定供給体制の維持・強化を図る



原薬調達のリスク

原薬の出荷・製造中止
(環境、天災、感染症、事故等によるリスク)

原薬製造所のGMP対応リスク
(品質・製造に関する薬事規制上の齟齬)

変異原性不純物発生のリスク
(ICH-M7ガイドラインに準拠)

出発原料・中間体のリスク
(原薬の上流サプライヤーの重複)

東和薬品の取り組み

原薬の自製化

- 合成プロセスを開発し、大地化成または協力会社で製造することにより、外的要因による安定供給リスクを低減

製造所に対する監査体制

- 国内法令だけでなく国際基準に準じた監査
- 技術専門家による監査（合成・理化学分析）

出発原料・中間体を含めた複数購買化の推進

- 当社が製造販売している製品に関わる原薬の複数購買率60%以上を維持し、有事の際にも安定供給が維持できる体制を整備
- 出発物質・中間体サプライヤーの重複を避けた購買先の選定

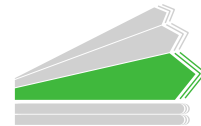
変異原性不純物への対応

- 精度の高い測定を行い、発生メカニズムを特定し、適切な対応を実施
- 最新の知見を活かした発生リスクの予測

3 工場の生産体制による生産能力向上

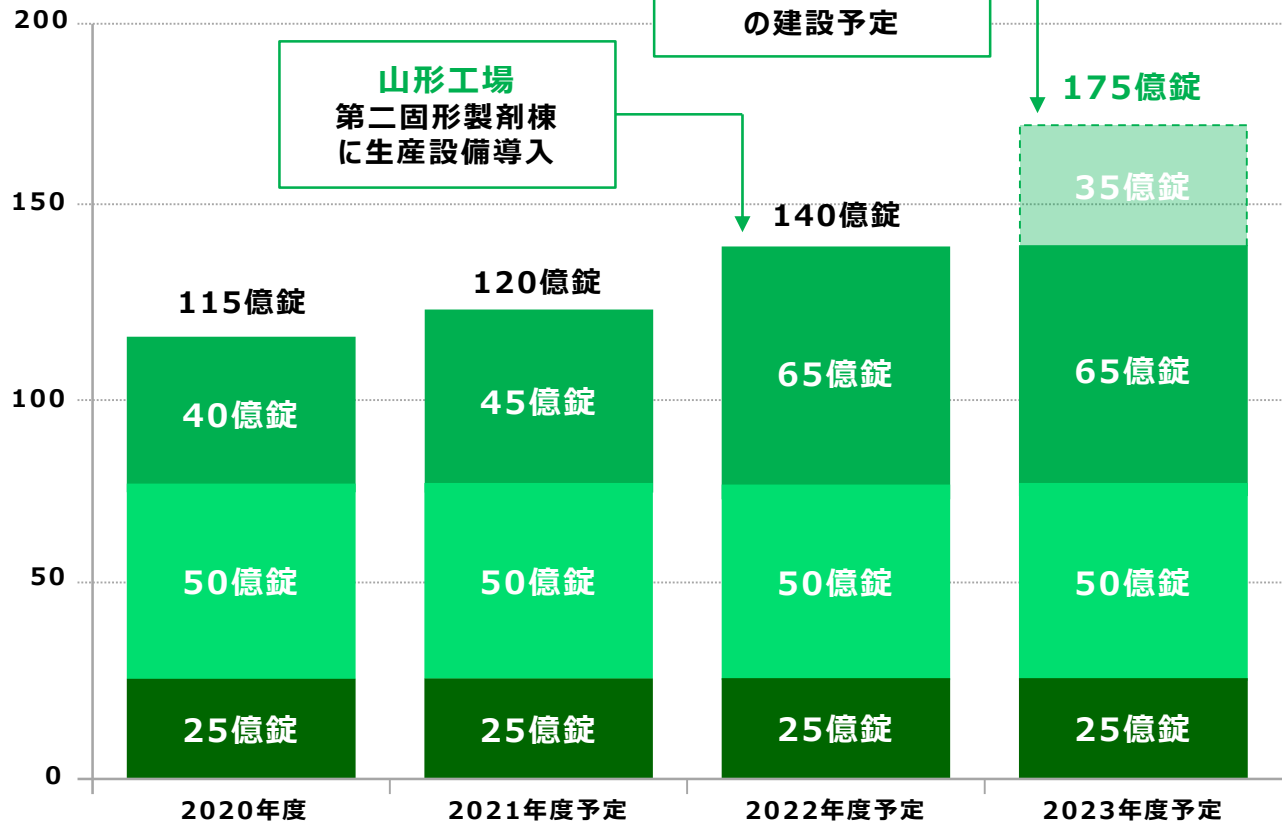
方針 1

コア事業としての
ジェネリック医薬品事業の進化



■ 大阪工場 ■ 岡山工場 ■ 山形工場

(単位：億錠)



山形工場



岡山工場



大阪工場

2023年度までに、175億錠の生産能力に向けた生産体制を構築

* 錠剤・カプセル剤の生産能力

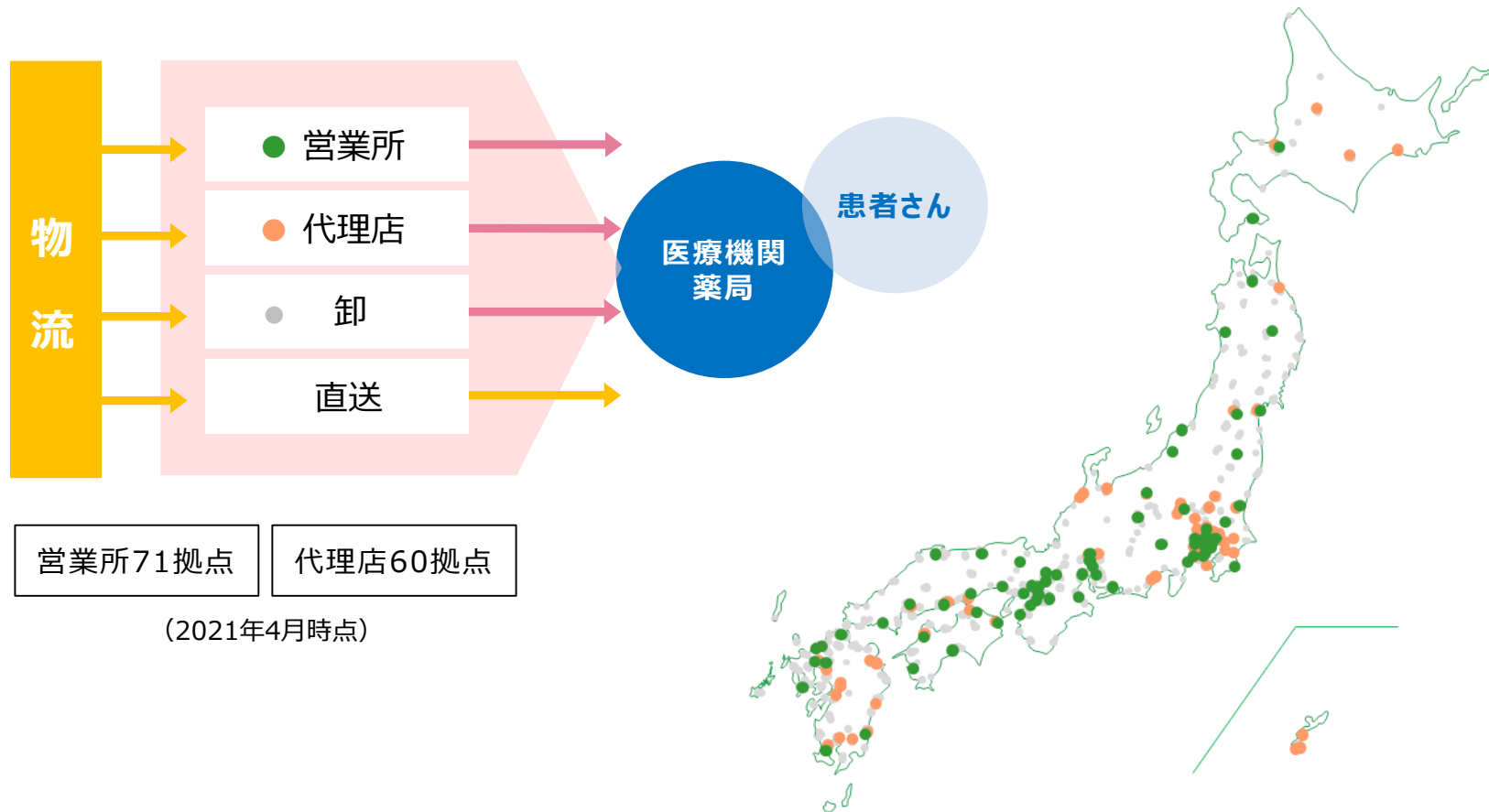
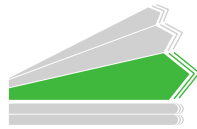
こころの笑顔を、すべてのひとに。
あしたの健康を、あなたのものに。



東和式販売体制の最適化

方針1

コア事業としての
ジェネリック医薬品事業の進化

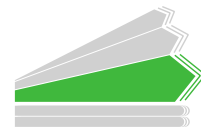


全国を網羅する東和式販売体制を最適化し続けることで、
東和製品を必要とする医療機関・薬局とその先の患者さんにお届けする

品質保証体制の維持と強化(製造管理)

方針 1

コア事業としての
ジェネリック医薬品事業の進化



製造工程管理システムMES
で入出庫データ等を記録



工程毎に
製造指図記録書に記録



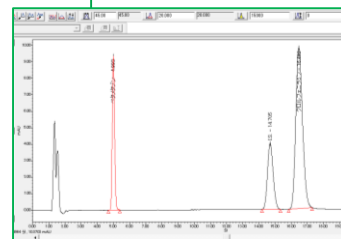
各工場 品質保証部
(大阪工場、岡山工場、山形工場)



取決めや品質規格に適合
しているか確認



品質試験管理システムLIMS
で分析データを管理



記録やデータに誤りが
ないか確認

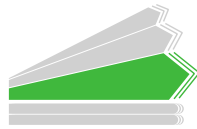


本社 信頼性保証本部

GMP・GQP・GVP省令およびGDPガイドラインを遵守するため、
管理システムや仕組みを強化し、確かな品質と安全性の確保に継続して取り組む

こころの笑顔を、すべてのひとに。
あしたの健康を、あなたのものに。

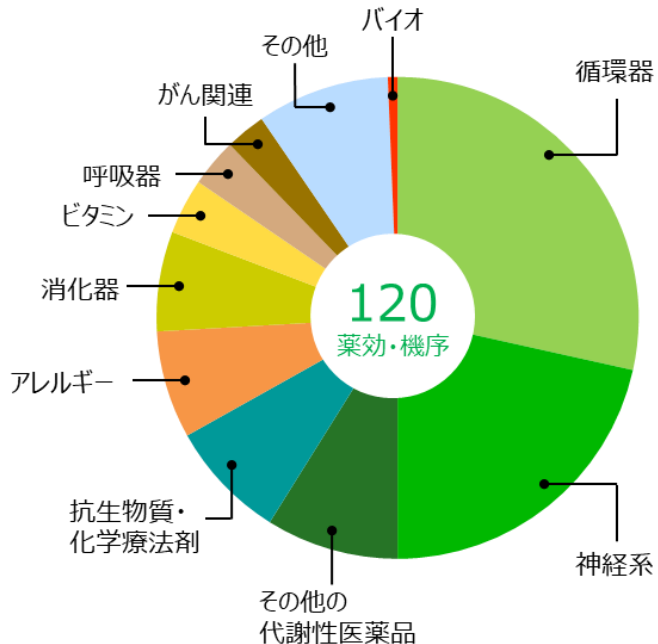




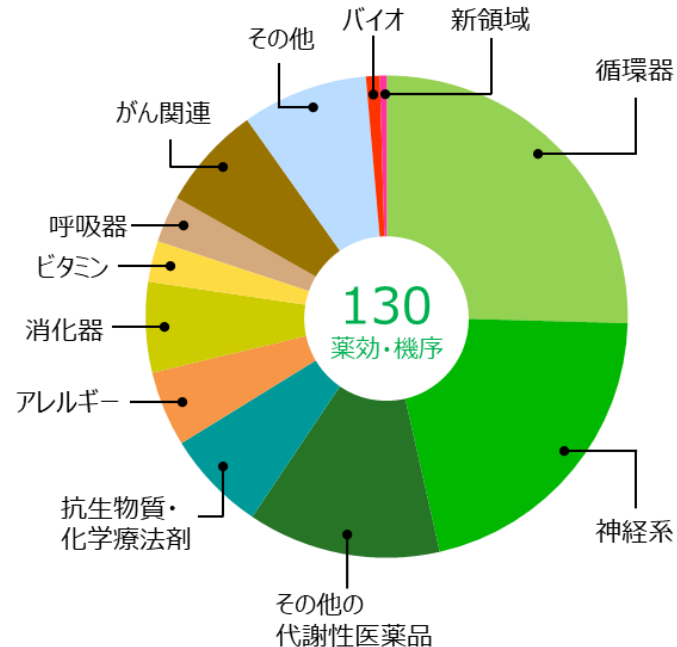
将来の薬物治療においても必要と考えられる医薬品を中心に品揃え

- 幅広い領域において製品をラインナップ
- インフリキシマブBSの共同販売を足掛かりにバイオシミラー市場へ参入
- iPS創薬によるドラッグ・リポジショニング、リバスチグミン経皮吸収型週2回製剤の開発など、既存の枠組みにとられない新たな領域への挑戦

▼ 2020年度領域別製品構成比



▼ 2030年度領域別製品構成比 (予定)



製品総合力No.1の製品づくり

方針1

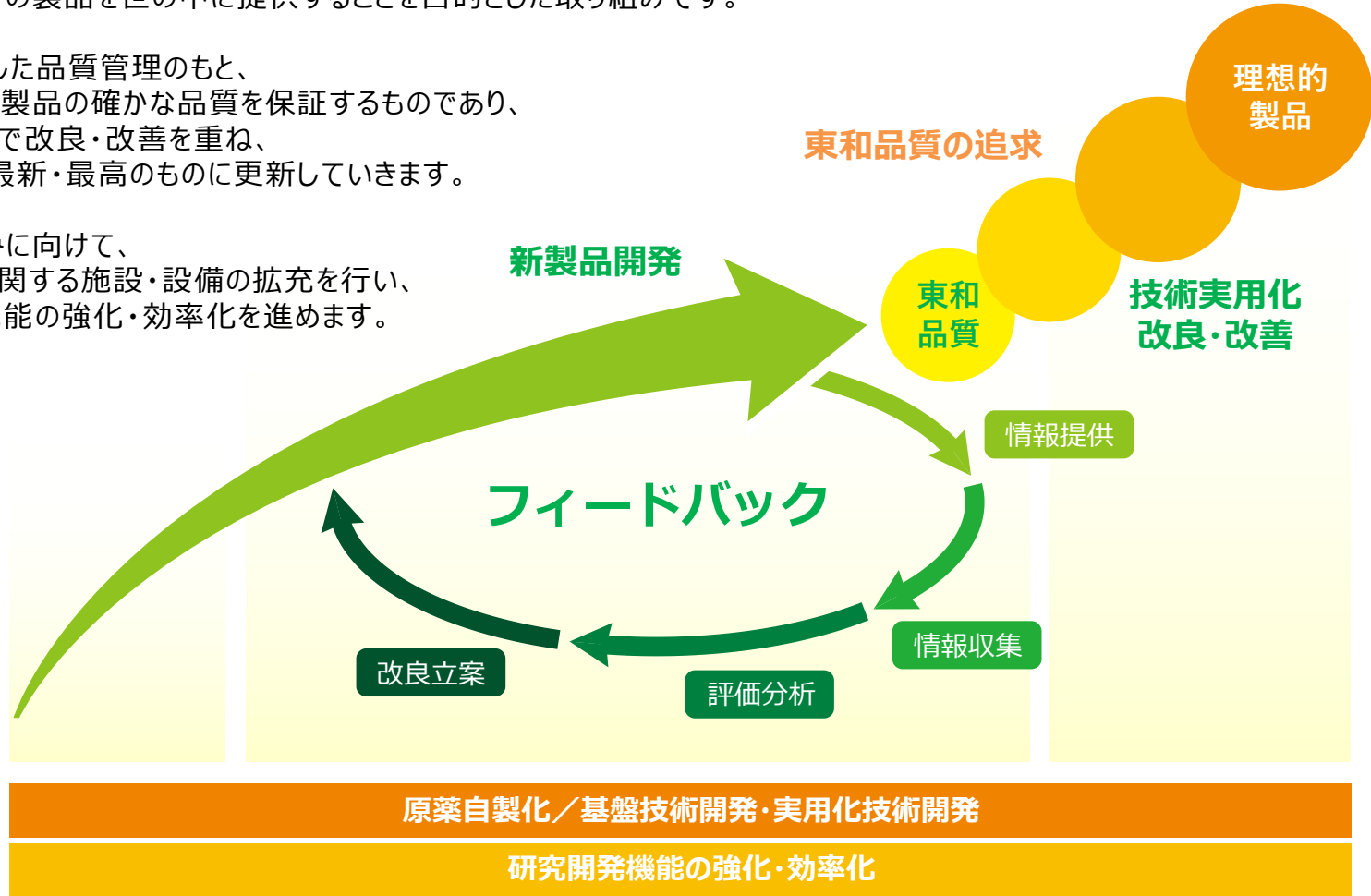
コア事業としての
ジェネリック医薬品事業の進化



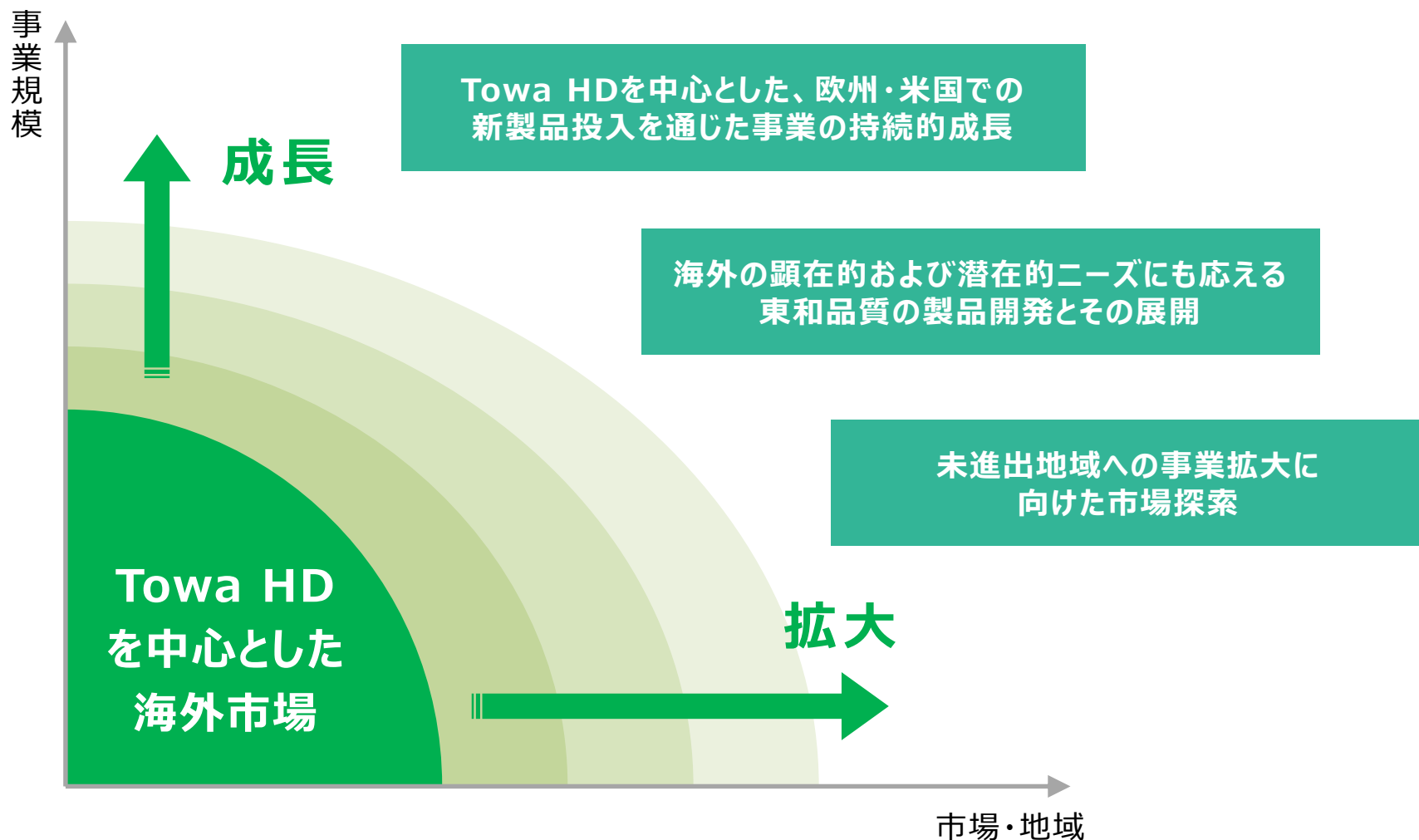
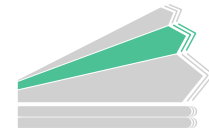
製品総合力No.1の製品づくりとは、安心してお使いいただける「東和品質」の製品を世の中に提供することを目的とした取り組みです。

これは徹底した品質管理のもと、提供していく製品の確かな品質を保証するものであり、最新の技術で改良・改善を重ね、その時々で最新・最高のものに更新していきます。

この取り組みに向けて、研究開発に関する施設・設備の拡充を行い、研究開発機能の強化・効率化を進めます。



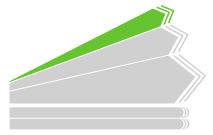
こころの笑顔を、すべてのひとに。
あしたの健康を、あなたのものに。



新たな健康関連事業への展開

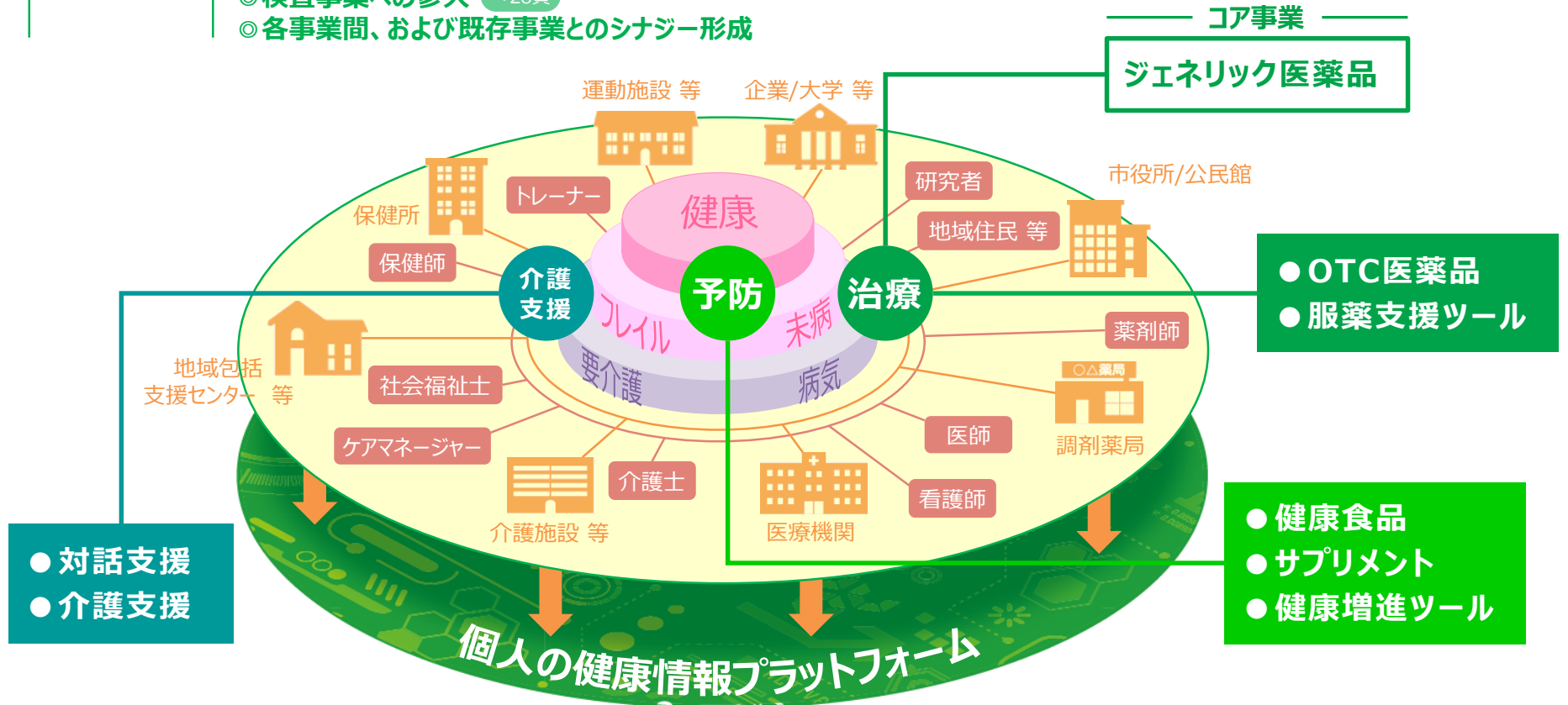
方針3

新たな健康関連事業への展開



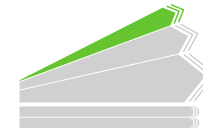
重要施策

- ◎ データ活用による健康寿命延伸の基盤構築
- ◎ 地域包括ケアシステムへの貢献
- ◎ 健康維持・増進のための製品、サービスの更なるラインナップ増加
- ◎ 検査事業への参入 →28頁
- ◎ 各事業間、および既存事業とのシナジー形成



理想とする地域社会創生のための基盤構築への貢献
 必要な健康増進サービスを必要とする人へ提供し、健康寿命の延伸に貢献

こころの笑顔を、すべてのひとに。
 あしたの健康を、あなたのものに。



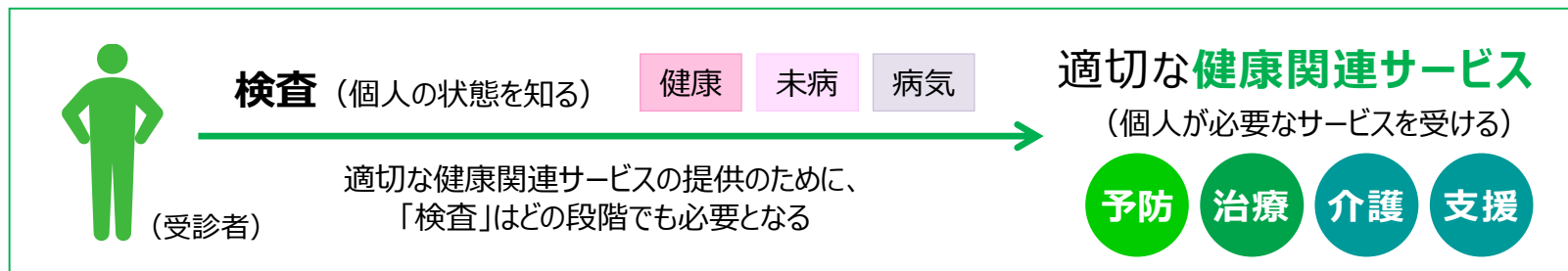
検査事業参入のねらい

近年、「健康」と「病気」の間にある「未病」という状態が注目されています。「未病」は「病気」への移行状態である一方、この段階で異常を発見できれば、「病気」の予防につながり、「健康」状態に戻ることも期待できます。東和薬品では、今後展開する健康関連事業において、「健康」「未病」「病気」のすべての段階において、**健康状態のチェック（＝検査）が重要**であると考え、検査事業に参入しました。閣議決定された骨太方針2020にも、予防・健康づくり、重症化予防の取り組みの重要性が記載されており、**検査事業は将来にわたる健康に関する社会的要求**であると考えます。

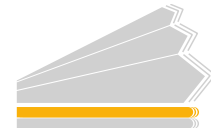
重要施策

- ◎ 疾病リスクの検査サービスの開始
- ◎ 検査事業以外も含めた健都ヘルスケア科学センターの拡充

検査事業の位置付け（イメージ）



検査によって得られた情報を収集・活用し、適切な健康関連サービスの提供につなげることで、健康寿命の延伸に貢献



原薬技術

「分子制御技術」の確立

- 原薬の結晶形や粒度を自由にコントロール
⇒付加価値製剤の開発に貢献

「不斉合成技術」の確立

- 効率的な原薬合成を可能とする

「連続フロー精密合成」の開発

- 廃棄物やCO₂の排出が少ない触媒反応を鍵とし、
環境に優しいグリーン・サステナブル・ケミストリー
を追求

生産技術

リアルタイムで生成物を監視する技術の構築
(PAT : Process Analytical Technology)



連続生産への応用

- 一貫した流れの中で製造するため、省人化が可能
- 製造設備が小さく、専有面積が抑えられる

製剤化技術

服薬しやすいOD錠の追求

- RACTABの進化
⇒苦味マスキング、錠剤の小型化、より速やかな崩壊性を実現

安定な製剤の実現

- 有効成分の分解を抑制する技術を応用した製剤開発
- 3年+aの有効期間を担保

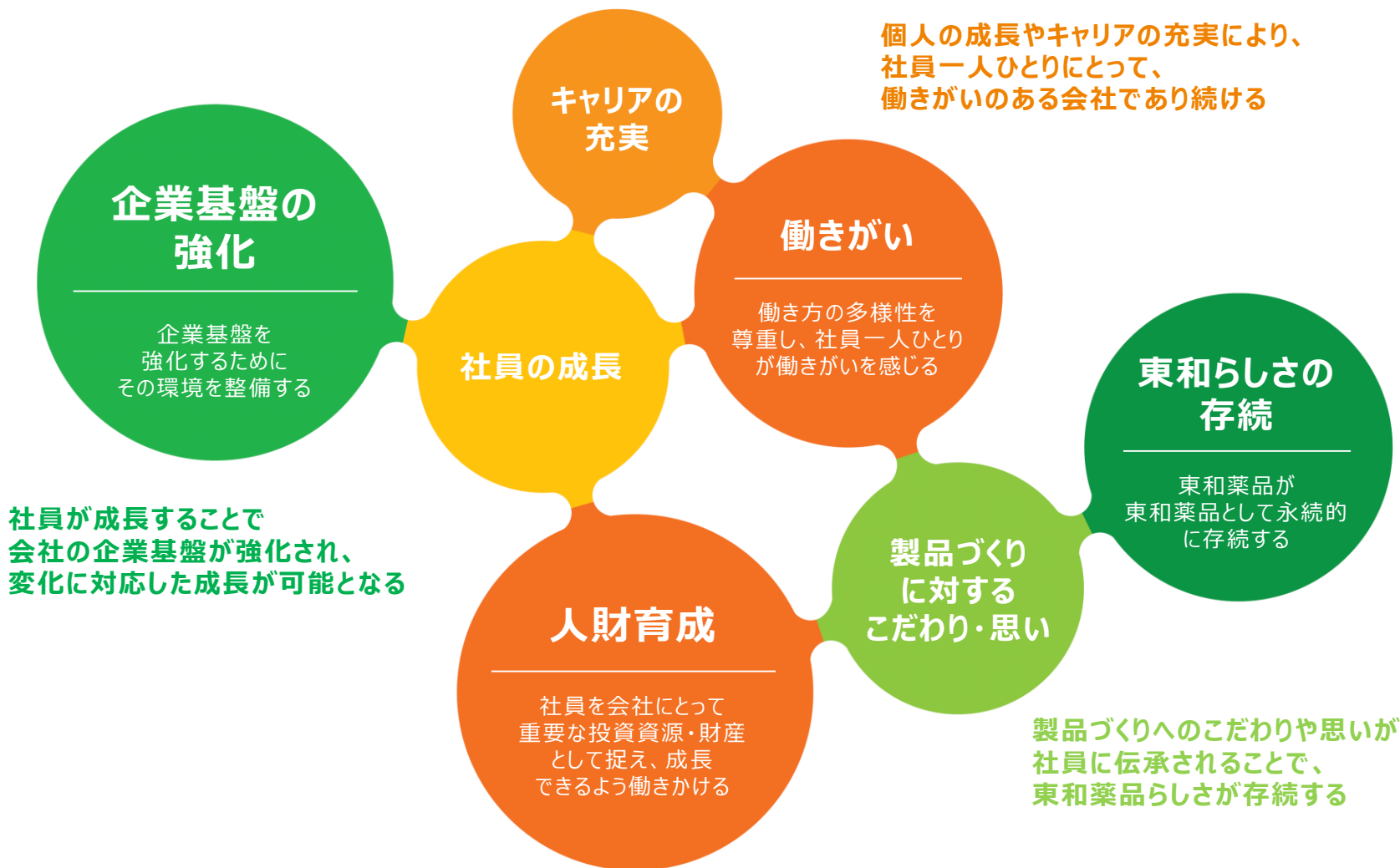
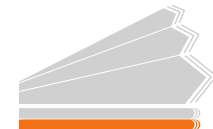
新たな製品価値の創出

ブロモクリプチンの新規適応取得を目指した共同研究

- 家族性アルツハイマー病を対象とした治験を開始

リバスチグミンの新用法・用量製剤の開発

- 経皮吸収型週2回製剤の開発
- 患者さんやご家族、介護に携わる方の負担軽減につながることを期待
- 2021年夏に臨床試験（第Ⅲ相試験）の開始予定



主要項目の計数目標

売上高

[連結] **2000億円達成**

[単体] **1500億円達成**

単年度の売上高の達成

営業利益 (累計)

570億円以上

持続的な成長のための投資
および株主還元のために、
期間累計の営業利益の達成

研究開発費 (累計)

350億円以上

必要とされる製品の品揃えと、
医療機関や患者さんからの
要望に応える製品の改良・改善

設備投資 (累計)

750億円以上

品質保証体制、安定供給体制を
維持・強化するための生産設備
および研究開発機能の
強化・効率化への投資

配当政策

安定配当の実施

安定的な配当を基本とし、
企業価値の向上を見据えた
株主還元を図る

将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、
確約や保証を与えるものではありません。
予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

お問い合わせ先

東和薬品株式会社 広報・IR室
ir@towayakuhin.co.jp TEL.06-6900-9102 FAX.06-7177-4960